

資料3 「輝く日を仰ぐとき How Great Thou Art」略解

作成 2022-11-13 岡本雅幸

讃美歌「How Great Thou Art」は、20世紀に誕生し、長年キリスト者に愛されてきた優れた讃美歌ですが、この讃美歌が辿った歴史は少々複雑です。そこでまず概要を簡潔に申し上げます。

なお、この資料は幾つもの Web 資料を参照して再構成していますので誤りがあるかも知れません。訂正すべき事項に気付かれましたらご一報いただけると幸いです。

(1)「How Great Thou Art」は、1885 年にスウェーデンの牧師カール・ボバーク(Carl Boberg 1859-1940)による「O Store Gud」というタイトルのスウェーデン語詩文と、古いスウェーデン民謡のメロディーに由来します。

(2)讃美歌の英語版とその題名は、1949 年に英国の宣教師スチュアート・K・ハインによって大ざっぱに翻訳されたものです。

(3)この讃美歌は、著名な福音歌手たちやビリー・グラハム伝道チームの活躍により広められ、BBC により「英国民お気に入り讃美歌」に選ばれ、2001 年の Christianity Today 誌による「史上最も人気のある讃美歌」の調査では、アメイジング・グレイスに次いで第 2 位になりました。

1. 原詞の誕生

ボバークはスウェーデンで大工の息子に生まれ、船乗りとして人生をスタート。19 歳で信仰を持ち、やがて当時の最も優れた伝道説教家のひとりとなりました。

1885 年、彼はスウェーデン語の 'O Store Gud, nar jag den varld beskader.' で始まる九連から成る原詞を作詞します。その詩の靈感は、彼がスウェーデン南東海岸の美しい田舎を訪れた時に与えられたそうです。

彼は、日中、突然の雷雨に襲われ非難を余儀なくされます。畏敬の念を抱かせる恐ろしい雷光のきらめき、そして、その後の晴れて輝く太陽の下、平和で美しい小鳥たちのさえずりが近くの木々から聞こえてきたのです。帰宅後窓を海に向かって開けると、教会の鐘が奏でる葬送曲「永遠の時計が私の救われた魂をその安息日の休息に呼ぶとき」が聞こえて来たその夜、彼はペンを取り彼の賛美を詩に託したのです。

2. 最初のメロディーとの結びつき

数年後、ボバークはスウェーデンの県の一つ、ヴェルムランド県(ストックホルムの西方に位置し、ノルウェーとの国境に接する)での集会に参加します。その時、会衆が彼の詩に古いスウェーデン民謡のメロディーをつけて歌うのを聞いて非常に驚いたそうです。

3. 最初の英訳詩の誕生

E.Gustav Johnson (1893-1974)により、原詞の 1-2 節、7-9 節が翻訳され、1925 年に合衆国で「O Mighty God」として出版され、1973 年の聖約讃美歌には原詩の 9 節すべてが含まれていました。

しかし後年、この“ジョンソン バージョン”より人気があった英国の宣教師スチュアート・K・ハインの「How Great Thou Art」のバージョンに置き換えられました。

4. 現代に伝わる英語歌詞の誕生

英国のメソジスト宣教師、スチュアート・ウェスリー・キーン・ハイン(Stuart Wesley Keene Hine 1899-1989)は救世軍に入り 1914 年頃洗礼を受けました。彼はイギリスのバプテスト伝道者チャールズ・スポルジョン(1834-1892)に大きな影響を受けました。

第 1 - 2 節

ハイン夫妻は、1931 年、当時はソビエト領のウクライナ伝道に従事する間、二人は、「輝く日を仰ぐとき」のロシア語訳讃美歌を信徒たちから学びました。しかし、その当時は英語歌詞を書く考えはありませんでした。彼らがロシアのカルパティア山麓に分け入った後の 1933 年頃、最初の 1-2 節の英語歌詞が生み出されました。その英語歌詞の靈感は、ある部分はロシア語詩から受け、ある部分は恐怖すら感じさせる神の御手のわざなる大自然から受けました。

第 3 節

ハイン夫妻が、カルパティア山麓の村から村へと福音を宣べ伝える途上、ロシア語で「キリストが自分たちの罪のために死ぬなんて信じられないことだ」と、神の愛と憐れみを賛美するのを聞きました。この時書き留められた言葉が、今日私たちが歌う 3 節の詩になりました。

第 4 節（英語歌詞の4節のことで、日本語歌詞では5節）

4 節は、第二次世界大戦後に追加されました。

ハイン夫妻は、1932 年から 1933 年にかけての冬に起きた人為的な大飢饉ホロドモール(当時のソ連最高指導者スターリンによって計画された、ウクライナ人へのジェノサイド)の間、一時ウクライナを離れました。また、1939 年の第二次世界大戦勃発によりイギリスに帰国しました。

戦後ハインは同労者と共に、英国サセックスにあった亡命ポーランド人コミュニティを訪れました。帰国を切望していた難民の証言と、キリストの再臨に対する彼らの信仰に触発され、1948 年ハインは彼の英語版讃美歌第 4 節を書き上げました。その後、英国の宣教師たちにより、現在の英語版(資料2)とほぼ同じ形でアフリカ・インドの旧英国植民地をはじめとした世界中に歌い広められました。

5. 現代に伝わる英語讃美歌の誕生

60 年代後半から 70 年代前半にかけてハインの翻訳が人気を博するようになると、讃美歌委員会は、それまでのジョンソンの「O Mighty God」を維持するか、より人気のあるハインの翻訳を採用するか議論しました。その結果、ハインの「How Great Thou Art」に置き換えることとなり、ハインの英語歌詞に彼が編曲した古いスウェーデン民謡の曲が付けられ、今日私たちが歌う「輝く日を仰ぐとき How Great Thou Art」(全 4 節)が完成されました。

6. 日本語歌詞

資料1をご参照下さい。編曲は中田羽後氏。なお、日本語歌詞4節の由来は不詳です。

引照聖句には、詩篇 8、詩篇 95、詩篇 104:1、詩篇 145:3、ヨハネ 3:16 などがあります。

以上